

海外安全対策情報（令和元年度第2四半期）

1 社会・治安情勢

10月23日の総選挙を控え、各政党とも選挙活動に力を入れているが、現在のところ治安上の混乱は見られない。5月のカーマ前大統領の与党BDP離脱に続き、9月末には同前大統領の弟であるツェケディ・カーマ大臣もBDPを離脱した。これは与党BDPにとって大きな痛手であり、彼らのBDP切り崩し作戦は大きな影響力を持っている。過去の選挙ではBDPが勝利するという事は明らかであったが、今般の総選挙では結果予測が難しく、野党連合UDCにも勝利のチャンスがあるとされている。既に、一部で選挙キャンペーンに関する不正問題について声が上がっていることから、選挙が僅差で決した場合には、敗者から投票の数え直し、選挙のやり直し等を求める声などがあがり、治安にも影響を与える可能性がある。また、どの政党も過半数以上の議席数を獲得できなければ、ハング・パーラメント（宙ぶらりん議会）となり、議会の解散及び選挙のやり直しとなる可能性もあり、今般の選挙は多くの不確定要素を含んでいる。引き続き当国の選挙に関する動向には注視が必要である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 正確な統計、犯罪の傾向等は発表されていない。犯罪発生件数は高い水準で推移しているとみられ、引き続き注意が必要である。

(2) 邦人被害事案

平日日中にハボロネ市内のアフリカンモール近くの路上で強盗未遂があった。

(3) 邦人以外の被害事案

ハボロネ市内で拳銃強盗やスマッシュアンドグラブの被害などが確認された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件に相当する事案は確認されていない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人の被害は確認されていない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情は引き続き良好で、大きな変化はなく、日本企業が犯罪の標的とされる可能性は低いと考えられる。